



岩手県田野畑村 & 早稲田大学 地域連携ワークショップ 2023

地域連携ワークショップとは

まちづくり、地域ブランド、移住定住、お土産、観光……自治体が抱える課題の解決策を、学生チームが提案する実践型ワークショップです。学部・学年を超えて集まった学生同士が議論しながら仮説を立て、自治体関係者や住民の方々へのヒアリングなどを通して提案につなげます。地域の魅力を知り、課題を深く考え、仲間と協働することは、成長の機会になります。

おススメのポイント！

- 田野畑村の魅力を引き出す提案を学生自身が総合プロデュースできます！
- 村長をはじめ住民の方々に直接ヒアリングする貴重な機会があります！
- グローバルエデュケーションセンター実践型教育プログラム「地域連携実践コース」の対象プログラムです。

テーマ

もっと知ってほしい田野畑村の魅力！

Uターン、Iターンのきっかけとなるような田野畑村の魅力を再発見せよ

岩手県田野畑村は、人口 3,013 人（令和 5 年 5 月 1 日現在）の農山漁村です。人口は年々減少し、年間出生者数は平成 30 年度から 10 人前後で推移しています。豊かな海や自然を生かした一次産業が盛んで、北山崎や鵜の巣断崖などの三陸復興国立公園を代表する景勝地を有し、観光客に体験型観光のプログラムを提供しています。一方で、産業面では、担い手不足や関係者の高齢化、また観光面では東日本大震災や新型コロナウイルスの影響による観光客減少への対策が課題となっています。村の人口や、村を訪れる人も減っているというのが現状です。

そこで、早大生のみならずではの感性で村外在住の田野畑村出身者や田野畑村を知らない人の Uターン、Iターンのきっかけとなるような村の魅力を引き出していきたいと思います。人口減少に歯止めをかけ、人口を一気に増やす、産業の担い手を見つけ出すといった直接的な施策ではなく、村の魅力を広く伝えるための方法や仕組みなどのアイデアを検討いただきます。なお、補助金などの金銭的な支援ではなく、制度や事業、環境（整備も含む）での支援策を期待しております。

田野畑村の魅力

田野畑村は岩手県沿岸北部に立地する臨海型の山村です。海産物だけでなく、酪農が盛んで乳製品が特産品として自慢です。沿岸部には財団法人日本交通公社による観光資源評価で特 A 級の評価を受けた景勝地「北山崎」をはじめとした絶景が広がり、また、現役の漁師がガイドを務める「サップ船アドベンチャーズ」などの体験型観光も盛んな村です。



募集概要

募集期間	2023年6月2日（金）～6月18日（日）23：59 [期間厳守]
募集対象	早稲田大学に所属する正規学部生・大学院生（修士課程）（学部、専攻、学年問わず）
応募条件	原則として事前説明会（オンライン）への出席 および 全ての公式日程（次頁）への参加が可能なこと
募集人数	2チーム（10名程度）
応募方法	事前説明会（オンライン）について【要申し込み】 日時：6/7(水)、6/12(月)、6/15(木) 12:30～12:55（全日程） ※申し込み方法などの詳細は、Waseda メールもしくは Web ページ上のご案内に記載しています。 ※すべての回で内容は同じです。上記 6 日程のうち、いずれかの回にご参加ください。 ※事前相談会（12:55～13:10）も上記の日程で実施します（参加は任意です）。 （説明会出席後）以下の手順もしくは右の QR コードのリンク先から申請してください。 ① MyWASEDA の「お知らせ一覧」から「地域連携ワークショップ 2023 夏編」を検索 ② 「地域連携ワークショップ 2023 夏編応募フォーム」から「申請」をクリック 必要事項（志望理由、ワークショップ期間中のスケジュールなど）を入力して申請 
選考方法	書類選考：結果通知は6月28日（水）までにWasedaメールにて通知します。 ※面接選考（オンライン）を実施することがあります。その際は対象者に別途ご案内します。
注意事項	① 当ワークショップは一般授業とは扱いが異なります。成績評価・単位認定等はありません。 ② フィールドワーク（現地調査）の実施を含む対面・オンラインのハイブリッド形式で実施します。活動地は早稲田キャンパス、岩手県田野畑村内となります。 ③ 【重要】公式日程以外にも、自主的にミーティングやグループワークを実施する機会が多く、期間中は当ワークショップの活動が中心となるよう、スケジュール管理はくれぐれも注意してください。 ④ オンライン実施の場合、「公共の場所では参加しない」「ヘッドセットなどを装着する」など、第三者に実習内容を知られることがないよう措置を講じてください。 ⑤ 参加にかかる費用（現地までの交通費※、フィールドワーク期間中の食費、オンラインでの活動に必要な端末の購入費、通信費など）は参加者による実費負担です。宿泊はホテル羅賀荘（2人1室、1泊8,000円）の予定です。※交通費の目安（片道・ご参考）：東京→盛岡→宮古駅前 17,310円 ⑥ 田野畑村から往復の交通費及び現地活動費（食費は除く）として約半額分の補助があります。現地での移動は、役場公用車（村役場職員が運転）等を使用します。なお、自治体からの補助に加え、大学からの補助（地域連携ワークショップ活動助成金）により実際の個人負担は食費等を除き 10,000円程度となる予定です。（補助金額詳細はワークショップ開始時等にご案内します）。 ⑦ 【重要】当ワークショップに応募する場合、同時期に実施されるプロフェッショナルズ・ワークショップへの応募はできません。事前に各ワークショップの特色などをご確認の上、応募してください。 ⑧ 当ワークショップは複数の地域（第2希望まで）に応募することができますが、最終的に参加できるのは1地域のみです。当地域を第1希望として申請し、選考を通過した場合はその時点で第2希望の地域のワークショップには参加できなくなります。 ⑨ 早稲田大学の学生補償制度に加入いただきますが、新型コロナウイルスは補償の対象外となります。 ⑩ ワークショップ実施日と重複する集中科目等を欠席した場合、公欠扱いとはなりません。 ⑪ 選考結果に関する問い合わせにはお答えいたしかねます。あらかじめご了承ください。 ※新型コロナウイルス等の状況によって、プログラム内容等に変更が生じる場合があります。
問合せ先	教務部教育連携課（rbso@list.waseda.jp） ※問い合わせの際には、件名のほか所属学部／研究科、学年、氏名を必ずメール本文に含めてください。

ワークショップスケジュール

	予 定	日 程	内 容
①	オリエンテーション @早稲田キャンパス	7/6(木) 17時-19時	・参加者顔合わせ ・自治体担当者からの説明 ・課題および課題設定に至った背景の説明 ・今後のスケジュール確認 ・事前調査の内容説明
②	交流会 @早稲田キャンパス	7/13(木) 14時-16時	・ミニゲームなどを通して参加学生同士の親睦を深める ・フィールドワーク前の注意事項確認 ・交流会前後はグループワーク用に会場開放予定
③	事前調査期間 オンラインヒアリング	～8/5(土) 8/1(火)～8/4(金)	・田野畑村について調査／情報収集、テーマに対する仮説設定 ・ヒアリング希望先、質問内容等を検討し、自治体へ提出(7/24(月)〆切) ・現地調査前にオンラインヒアリング実施
④	フィールドワーク (現地調査) @田野畑村	8/6(日)～8/9(水)	・田野畑村にてフィールドワーク(現地調査) ・仮説に対して実際に現地調査を行い検証 ・村長懇談(8/8(火))実施 ・視察場所は以下を予定 村内観光スポット(北山崎、鵜の巣断崖、机浜番屋、サッパ船アドベンチャーズ、みちく潮風トレイル、田野畑村民俗資料館、三陸鉄道田野畑駅・島越駅、道の駅たのはた、思惟創館など) ・観光従事者等へヒアリング(ホテル羅賀荘、NPO 体験村たのはたネットワーク、(一社)思惟の風、役場観光担当など)
⑤	村長懇談 (現地調査) @田野畑村	8/8(火) ※現地調査期間中に実施	・田野畑村村長との直接の意見交換
⑥	オンラインヒアリング (@Zoom)	8/22(火)～8/25(金)	・事前調査やフィールドワークでの検討結果をふまえ、提案の検証に必要なヒアリングを行う ※ヒアリング先のご都合に応じて実施時間は流動的となるため、左記の日程はスケジュールを空けておくようにしてください。
⑦	対面グループワーク @早稲田キャンパス	8/29(火) 10-17時	・中間報告会前に学内の教室でグループワーク可能。実施時間は参加学生の都合を確認し決定
⑧	中間報告会 @早稲田キャンパス	9/7(木) 10時-12時	・ヒアリング、懇談などをふまえた提案内容の報告 ・自治体担当者はオンライン、大学職員は対面参加予定 ・報告会後はグループワーク用に会場開放予定
⑨	プレ報告会	9/14(木) 10時30分-12時30分	・最終報告会に向けた進捗確認／発表練習 ・報告会後はグループワーク用に会場利用可能

⑩	対面グループワーク @早稲田キャンパス	9/19（火）10－17 時	・最終報告会に向けて、学内の教室でグループワーク可能。 実施時間は参加学生の都合を確認し決定 ・プレ報告会での指摘をうけ、提案内容最終調整、プレゼン練習等
⑪	最終報告会準備 追加調査期間	中間報告会～9/20（水）	・中間、プレ報告会でのフィードバック等をふまえたブラッシュアップ ・状況に応じてリハーサル（対面 or オンライン）実施・提案の再検証（必要に応じて追加ヒアリング実施）
⑫	最終報告会 @早稲田キャンパス	9/21（木） 13 時 30 分-15 時 30 分	・村長など自治体関係者や地域住民の方々（@オンライン）に向けて提案を発表（約 2 時間） ※最終報告会終了後、学生と大学職員との振り返り会（1 時間程度）を実施するため、解散時刻は 16 時 30 分頃となります。

※スケジュール（特に中間、最終報告会、現地調査以外）は変更の可能性がございます。

実施の流れ

- オリエンテーション：自治体の方から課題（テーマ）やその背景を聞く
↓
 - 事前調査：
個人、チーム単位で地域やテーマについて調査。
課題に対する仮説を設定し、提案の方向性をまとめる。
どのような方にヒアリングしたいのか、どのような質問をしたいのかりスト化
↓
 - 現地調査・ヒアリング：
自治体関係者、地域住民へのヒアリング（対面＋オンライン）
↓
 - 最終提案資料作成：
現地調査やヒアリングなどを踏まえ、仮説を検証し、最終提案資料をまとめる
↓
 - 最終報告会：自治体関係者、地域住民を前にプレゼンテーション
- 学生同士で時間を決め、対面での打合せや Zoom 等で議論を進める

過去のワークショップ参加学生の声

※当地域の参加学生以外のものも含まれます。

ワークショップでの活動を振り返って

- 「学生だけじゃ何も変えられない」から「学生だから変えられる」という経験ができました。（社会科学部 1 年）
- インターネットで得られる情報は一部に過ぎず、生の声を聞いて初めてわかることがたくさんあった。（中略）また、自分のアイデアを言語化する難しさを痛感した。（文化構想学部 2 年）
- 今までにない視点を発見することができたことがもっとも大きな収穫でした。（中略）机上の空論でない地方創生とは何かを学ぶことが出来ました。なかなか大学にいても学べないことであったので貴重な経験となりました。（政治経済学部 3 年）

チームメンバーとの関わりを通して

- 元々考えていた案がヒアリングなどを通じて崩れても、また新たなものを考えようと前向きになれたり、（中略）ひとりではなくチームで提案を構築することの素晴らしさや難しさを体験できたので、今後に活かしていきたいです。（教育学部 2 年）
- 自分の長所や短所を発見することができ、意見を出すことの躊躇いがなくなりました。小さな意見や変わった意見でも言葉にすることで、新たな提案に繋がったこともあったため、発言に自信を持てるようになりました。（スポーツ科学部 2 年）
- あまり自己主張が得意ではなく、自己肯定感も低めだった自分ですが、今回の WS を通して相手の考えを尊重しながらも自分の意見を主張する大切さを学び、自分の得意なこともチームメンバーに教えてもらいました。（人間科学部 3 年）

「地域貢献」「地方創生」に対する考えの変化

- 自分が住む地域をよりよくするために、行政の方々だけでなく、ヒアリングでお伺いした多くの方々がそれぞれ熱い思いをもつて様々なことを考えていらっしゃることがとても印象的でした。今思えば、ワークショップ参加前は「地域貢献」「地方創生」といったキーワードを軽く考えていたと思います。（教育学部 1 年）
- ヒアリングを通して、「地域貢献」「地方創生」はその地域に愛着をもって創生したいと思って進んでいる方々を尊敬し、その方々が感じている魅力に寄り添っていく延長線上にあると強く意識するようになりました。（創造理工学部 1 年）